

小樽市銭函海岸に沿って大きく蛇行して石狩湾に注いでいた旧小樽内川は、アイヌ語のオタナイ(砂川)、オタル・ナイ(砂浜の中の川)に由来する。河口には松前藩の小樽内場所が置かれ、それが西へ広がり「小樽」発祥の元となった。一方、河口の右岸は明治15年オタナイに集落が形成され「樽川村」が設置された。砂

浜はオタネ浜海水浴場として大いに賑わったという。水鳥や昆虫、湿地性植物など多様な生物が生息する沼の周囲をひと廻りすることができ、石狩湾と手稲の山並の広大な景観が楽しめる。砂丘ではハマナスをはじめとする海浜植物群が見られ、さらに陸側では日本有数のカシワの天然海岸林を身近に観察することができる。

コースのルート／距離／所要時間		
赤コース	ルート…A→B→D→C→A	距離…約2.3km / 所要時間…40分
青コース	ルート…A→B→C→A	距離…約1.8km / 所要時間…35分

アクセス
北海道中央バス「石狩新港西線」「手稲駅北口」乗車約11分、「前田森林公園」下車(朝2便、逆ルート夕方2便)、徒歩約50分。
JR北海道バス「発寒団地線/山口団地線[宮45]」「地下鉄宮の沢駅前」乗車約35分、「手稲山口団地6号棟前」下車、徒歩約35分。
JR北海道バス「山口団地線[手40・41・95/循環手40・41]」「手稲駅北口」乗車約14分、「手稲山口団地6号棟前」下車、徒歩約35分。

コースの見どころ・名所

- #### 1 砂丘を彩る海浜植物



ハマナスをはじめ、ハマエンドウ、ハマヒルガオ等が季節を彩る。
- #### 2 旧小樽内川跡の沼



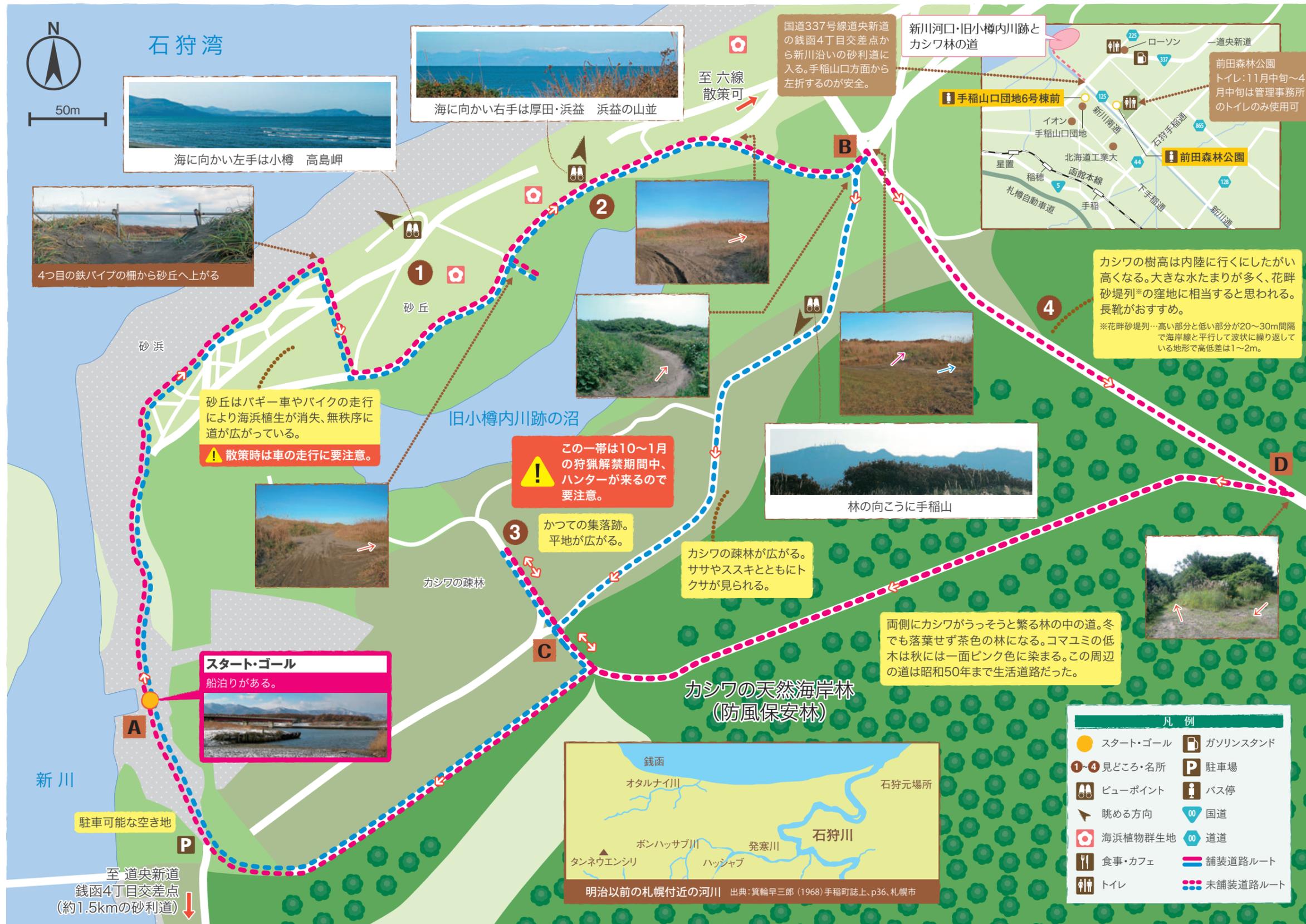
かつて新川が作られる前、日本海に注いでいた小樽内川の跡。絶滅危惧種のトンボや水生昆虫、湿地性の植物が自生する自然豊かな場所。
- #### 3 オタナイ発祥の地石碑



この地は、かつてオタナイと呼ばれた石狩町樽川発祥の地。昭和50年に石狩湾新港建設に伴い小樽市に編入され、住民は石狩町内に移転。
- #### 4 カシワの天然海岸林



明治時代から防風保安林として守られてきた、日本で最大規模の天然カシワ林。内陸側はミズナラ、イタヤカエデ等、樹種が増える。



石狩湾
海に向かい左手は小樽 高島岬
海に向かい右手は厚田・浜益 浜益の山並

砂丘
4つ目の鉄パイプの柵から砂丘へ上がる
砂丘はバギー車やバイクの走行により海浜植生が消失、無秩序に道が広がっている。
⚠ 散策時は車の走行に要注意。

旧小樽内川跡の沼
この一帯は10~11月の狩猟解禁期間中、ハンターが来るので要注意。

かつての集落跡。平地が広がる。

カシワの疎林が広がる。ササやススキとともにトクサが見られる。

林の向こうに手稲山

カシワの天然海岸林 (防風保安林)
両側にカシワがうっそうと繁る林の中の道。冬でも落葉せず茶色の林になる。コマユミの低木は秋には一面ピンク色に染まる。この周辺の道は昭和50年まで生活道路だった。

スタート・ゴール
船泊りがある。

至 道央新道 銭函4丁目交差点 (約1.5kmの砂利道)

至 六線 散策可

国道337号線道央新道の銭函4丁目交差点から新川沿いの砂利道に入る。手稲山口方面から左折するのが安全。

新川河口・旧小樽内川跡とカシワ林の道

前田森林公園 トイレ: 11月中旬~4月中旬は管理事務所のトイレのみ使用可

カシワの樹高は内陸に行くにしたがい高くなる。大きな水たまりが多く、花畔砂堤列*の窪地に相当すると思われる。長靴がおすすめ。
*花畔砂堤列…高い部分と低い部分が20~30m間隔で海岸線と平行して波状に繰り返している地形で高低差は1~2m。

凡例	
● スタート・ゴール	📄 ガソリンスタンド
1-4 見どころ・名所	P 駐車場
👁 ビューポイント	🚏 バス停
👉 眺める方向	00 国道
🌸 海浜植物群生地	00 道道
🍴 食事・カフェ	👉 舗装道路ルート
🚽 トイレ	👉 未舗装道路ルート



石狩海岸 フットパス



新川河口・旧小樽内川跡とカシワ林の道

制作・編集・発行：いしかり海辺ファンクラブ

フットパスのマナー

- ゴミは持ち帰りましょう。
- 砂丘を崩したり、植物を傷つけたりないようにしましょう。
- 住んでいる人の生活と仕事に敬意を払いましょう。
- 港や船着き場を通る時は、作業者の邪魔にならないように注意しましょう。
- 漁具に触れないようにしましょう。
- 不必要な騒音は立てないようにしましょう。

フットパスを楽しむための注意

- 長時間歩くのに適した服装、装備をご用意ください。
- 砂浜や砂丘では、バギー車やバイクの走行に気をつけましょう。
- 道路を歩く時は、車に注意しましょう。
- コースによってはトイレや休憩場所が少ない場合があります。出発前に用を済ませてから歩きましょう。

ご利用の際の事故や怪我は自己責任となります。無理をせず安全第一でお楽しみください。

石狩海岸(石狩市本町地区)へのアクセス

Car

- 札幌方面から国道231号線を留萌方面へ。志美交差点を左折、道道225号線を約3km。
- 留萌方面から国道231号線を札幌方面へ。石狩河口橋を渡り右折し約3km。

Bus

- 北海道中央バス「石狩線」「札幌ターミナル」乗車約60分、「石狩温泉」下車。

お問い合わせ先

北海道大学大学院 農学研究院 気付 TEL&FAX: 011-706-2451 (担当:松島)
 mail: iufc.office@gmail.com web: http://ishikari-umibe-fc.jimdo.com
 写真提供: 石狩観光協会・石狩浜定期観察の会・北海道野鳥愛護会会員・いしかり砂丘の風資料館・石狩浜海浜植物保護センター

このパンフレットは一般財団法人セブーン・イレブン記念財団の助成により制作しました。 2013.2

石狩海岸の自然

石狩海岸は、札幌中心部から車で45分という大都市近郊にかかわらず、生物多様性に富んだ海辺の自然環境が大規模に残された全国的にも貴重な自然海浜です。

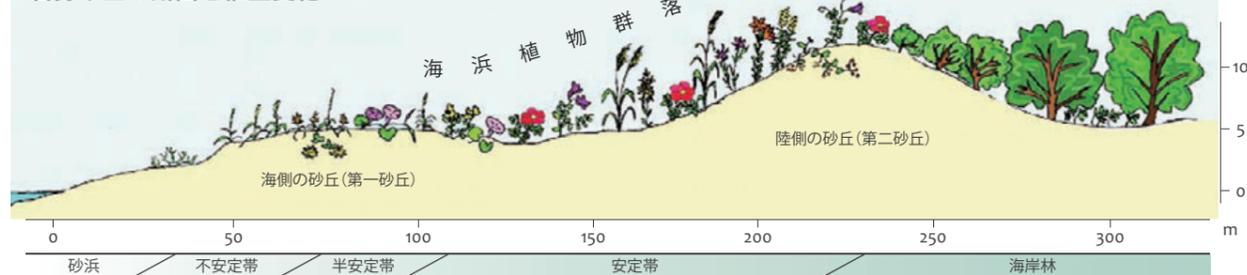
石狩川が運び、北西季節風が沿岸に寄せた砂によって形成された延長25kmにわたる海岸砂丘地形、大規模な海浜植物群落、日本最大規模のカシワの天然海岸林、これらが織りなす海岸砂丘特有の植生、海岸草原や水辺の野鳥、猛禽類、海浜特有の環境に生きる昆虫類等、これらすべてが石狩海岸のすぐれた自然の要素となっています。

海から内陸への植生の連続性

砂浜海岸は本来、海からの距離に応じて和らいでいく環境条件に対応して、植生の帯状の分布が見られ、海から内陸へ連続的に植生が変化していきます。しかし、近年は全国各地の砂浜海岸で、護岸・堤防建設、植林等により、本来の植生の連続性が失われつつあります。石狩海岸は、砂浜海岸本来の植生の連続性が大規模に残る全国的にも希少な自然海岸です。植物に覆われた砂丘は海岸の厳しい環境を和らげ、天然の防波堤として、高波などから背後を守ります。

また、すぐれた景観と快適なレクリエーションの場を提供します。

石狩砂丘の断面と植生変化



カシワの天然海岸林

小樽市銭函から石狩市厚田区望来まで、延長約20km最大幅約500m以上にも及ぶカシワの天然海岸林は、日本最大規模となっています。環境省が選定する「特定植物群落」のうち、郷土景観を代表する植物群落であり、人為的影響により急速に少なくなる恐れがある群落とされています。カシワは、厳しい海岸砂丘の環境に適応し、東北～北海道の天然海岸林を代表する樹種です。



カシワの実(9月頃)



冬のカシワ林

新たなルートの設定も計画しています。

- 3線スタート: 全長5.7km、1時間20分
 - 5線スタート: 全長8km、1時間50分
 - 4線スタート: 全長7.1km、1時間40分
- 石狩浜海浜植物保護センター

5線、4線、3線 ▶ 新港東ふ頭周辺 ▶ 花街道 ▶ 砂浜 ▶ 第一砂丘 ▶ 花街道と向かい側 ▶ 途中の花街道では季節の花が楽しめる。

に、海から陸へ向かって植生が変化していく浜辺の自然を感じながら、本町地区へ石狩湾新港東ふ頭周辺を通り、積丹半島から雄冬峠まで石狩湾の眺望を横目に

● 新港東から本町へのうみへみち

(赤コース: 全長1.8km、35分、青コース: 全長2.3km、40分)
 新川河口 ▶ 砂浜 ▶ 沼 ▶ カシワ林 ▶ 新川河口

海浜植物群や日本有数の天然カシワ林を身近に観察することもできる。

現在沼とつながっている、旧小樽内川跡周辺を歩くコース。多様な生物が生息する沼の周囲を廻ることができ、石狩湾と手稲の山並みの広大な景観が楽しめる。また、

● 新川河口・旧小樽内川跡とカシワ林の道

コース紹介



小樽市銭函から石狩市厚田区望来までの約25kmの石狩海岸は、自然のままの砂浜、砂丘上に広がる海岸草原、カシワの天然海岸林が大規模に残る、全国でも希少な場所となっており、北海道自然環境保全指針(平成元年)において、保全を図るべき「すぐれた自然地域」に選定されています。砂丘海岸の豊かな生態系とともに、古くから人々は小樽と石狩をつなぐこの海辺の道を利用してきた歴史があります。近年になり石狩湾新港ができ、新たな開発が行われている場所でもあります。石狩湾の大パノラマのもと、自然と歴史と未来を体験できる数々の道を、あなたも歩いてみてください。

石狩海岸フットパスとは

石狩海岸に生きる生命たち

海、砂浜、草原、森……多様な自然のつながりが多様な生態系を育てています。この自然が残されているからこそ、各地で絶滅の危機に瀕している生きもの達が、当たり前のように石狩海岸では見られるのです。



オジロワシ



ハヤブサ

